

本の題名 タマゾン川

83-1

タマゾン川を読んで

四年二組 金子 こう大

「タマゾン川」とよばれる川があります。この言葉は多摩川のことを指しています。でも多摩川は昔「死の川」とよばれていました。たがなせでもようか。

この本の作者は、多摩川の生きたい系を守る活動をしている人です。作者たちはある日、多摩川に遠い遠い外国の魚たちを見つけた。それを見つけた。多摩川にいる命に向きあふはなれたるうです

ぼくがこの本を読もうと思ったとき、かけは表紙のイラストです。なぜなら、ぼくは生き物が大好きで、かんたんに人と又トをなんだからおもしろそうしと思つたからです。こんなに意味が深いとは知りませんでした。

この本を読んで分かったことは、次の二つです。一つ目は、多摩川という身近な川が、人間がすてた外来種(元々日本にいないのに人間によって外から持ちこまれた生き物)たち



や人々がすてたごみによって、病気になった  
 人や死んでしまう魚がでましまつたことです。  
 これが「タヌクン川」や「死の川」とよばれ  
 るきかけです。二つ目は「みすてられし  
 まいた多摩川を守るうとすむ人がいる事です。  
 四苦八苦しなからも、きたない水をきれいに  
 する下水処理しせつを整ひをしたり、外来種  
 の問題をかい決するたために「お魚ポスト」を  
 作つて魚をあずかたりするなご川を守つ  
 ている人たちがいるのです。す。

このように、たくさんの問題をかい決する  
 ために「がんばっている人たちがいること」に  
 感動しました。  
 多摩川には外来種のきけんにおびやかされ  
 ている生き物がいるから、守ろうと働いてい  
 る人たちが知ることかできてよかつたです。  
 多摩川は生物と同じで生きている、だから自  
 分勝手によごすのでなく、助け合うのが大切  
 だと思いました。

この本を読んだおかげで次からは、できる



だけ生き物に近づけるように、まず生きたい系  
のことから調べてみようと思いました。それ  
と、きれいな川を守るためにど力する人たち  
を見て「ぼくも手伝ってみたい」と思いました。  
だからもっと多摩川の「命」を考えてみた  
いです。